

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

事務局：犬童矯正歯科クリニック 久永 豊
〒866-0857 熊本県八代市出町 5-9
TEL 0965-32-3571 FAX 0965-32-8338
Email y.hisahisa@gmail.com

令和3年度（秋季）

会長挨拶



熊本矯正歯科研究会会長 医)犬童矯正歯科クリニック 犬童寛治

朝夕の心地よい風や、美しい秋晴れなど日毎に秋の気配を感じる様になりました。会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルスによる未曾有の災禍の中、ご苦勞も多いかとお察ししておりますが、共に乗り越えていくことができたらと思います。

さて、今年も残すところ3ヶ月余りになりました。2021年研究会の6月以降の活動として、7月6日(火)、8月6日(金)、9月17日(金)リモート会議を開催し、11月20日(土)に和数奇司館にて予定している会員発表、特別講演、懇親会等の準備。また、会則に基づいた会の運営や改善点の有無等、今できる事は何か？時間をかけて執行部一同話し合っております。また、全国的にワクチン接種も進み、やや感染が減少してきている状況ですが、会場における人数制限、ソーシャルディスタンス、リモート開催も視野に入れながらの運営ですので、会員の皆様には、ご迷惑やご心配をお掛けする事と思いますが、引き続きご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。

特別講演では、鹿児島県 鹿児島市にて一般歯科・矯正歯科で開業されている北園俊司先生をお招きし、演題「矯正治療を取り込んだ歯科臨床」と大変興味深いご講演をして頂く事になっております。略歴が示す通り、一般歯科において数多くの実績・結果を残され、さらに矯正治療から他科との連携歯科治療など、幅広くご活躍されている先生に熊本矯正歯科研究会にて、ご講演して頂ける事を大変有り難く感じると共に、包括歯科治療を実践されている会員の先生方にとって、必ずや有意義な時間になる事と確信しておりますので、どうか奮ってご参加頂ければ幸いです。

最後になりますが何かと不便の多い今日ですが、新型コロナウイルスによる混乱が1日でも早く収束しますように願いながら、会員の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

令和3年度執行部

会長：犬童寛治

副会長：太田文隆 京極和彦

事務局：久永 豊 (平良幸治)

会計：上村裕希

学術：久永 豊

運営：池上富雄 分山英次

ホームページ：近藤俊輔

広報：鬼塚研志

以上、理事

監事：山部耕一郎 山本資晴

令和3年度前期の主な活動報告

理事会

令和3年

5月7日に第1回理事会（リモート会議）を開催いたしました。

7月6日に第2回理事会（リモート会議）を開催いたしました。

8月6日に第3回理事会（リモート会議）を開催いたしました。

9月17日に第4回理事会（リモート会議）を開催いたしました。

令和3年度前期熊本矯正歯科研究会 総会・会員発表・特別講演会・懇親会

令和3年6月19日（土）に予定しておりました令和3年度前期熊本矯正歯科研究会 総会・会員発表・特別講演会・懇親会は新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、開催を中止いたしました。

今後の主な活動予定

令和3年度後期熊本矯正歯科研究会 総会・会員発表・特別講演会・懇親会

令和3年11月20日（土） 場所「熊本和数奇司館」にて

総会 17:00～、会員発表 17:30～、特別講演会 18:00～、懇親会 19:30～、を予定しております。

※今回はオフラインでの対面形式を予定しておりますが、新型コロナウイルスの感染状況によってリモート等に形式が変更になる場合がございます。（その際は追ってご連絡させていただきます。）

【会員発表】

演者 徳永 衣吏子先生（熊本県菊陽町開業）

演題 「開院2年目を迎えて」



略歴

2010年 鹿児島大学卒業

2010年 九州大学歯科臨床研修医

2011年 医療法人親和会 ヒサドメ歯科勤務

2014年 医療法人ハヤの会 田中矯正歯科勤務

2017年 医療法人 熊本駅前矯正歯科クリニック勤務

医療法人共愛会 共愛歯科医院 非常勤

2020年 りの歯科矯正歯科 開業

発表抄録

2020年7月に菊陽町にて開業し、早くも1年が過ぎました。

開院当初から現在に至るまで、新型コロナウイルスの大流行の最中という、イレギュラーな門出となりました。当院には地域柄、ファミリー層で通院される患者さんが多く、小さいお子様からご年配の方まで来院されます。新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の災禍の中、様々な年齢層の患者さんが安心して治療を受けられる歯科医院作りを心がけ、矯正歯科を含めた歯科治療を通じて地域に貢献出来るよう努めて参りたいと思います。

コロナ禍以前の世界で常識とされてきた事柄が大きく変容し、日々変化を求められる現代の歯科医院の在り方、そして今後の課題について考えていきたいと思っています。

【特別講演会】

演者 北園 俊司先生 (鹿児島県鹿児島市開業)

演題 「矯正治療を取り込んだ歯科臨床」



略歴

1984年 福岡歯科大学卒業福岡歯科大学矯正学教室入局

1991年 鹿児島市において「きたぞの歯科矯正」を開業、現在に至る

資格

日本矯正歯科協会認定歯科矯正医 日本歯周病学会認定歯周病専門医

日本臨床歯周病学会認定指導医 ペリオインプラント指導医

日本矯正学会認定医 (第1回矯正歯科統一専門医試験通過)

FIRA(福岡口腔インプラント研究会)講師

福岡 SJCD 元会長 (2008年4月~2013年3月)

講演抄録

矯正治療の最大の特長は、歯を移動することによって中間欠損部を無くすかその距離を小さくできることであり、その小さくなった中間欠損部にインプラントや歯の自家移植を併用すればブリッジは不要となる。つまり健全歯を削合せずすみ、また削合歯は単冠処置が可能となるため、二次カリエスや咬合性外傷の発見も容易となる。しかも前歯の移動で適切なアンテリアガイダンスを与え、また破壊された咬合高径をインプラントなどで回復することができれば、咬合崩壊しにくく、審美的な口元を作ることが可能となり、さらにプラークコントロールのしやすい口腔内環境を作ることができる。今回一口腔単位で矯正やインプラントを駆使し、咬合・審美を改善した症例を報告したいと考えている。

ポスター発表

今回は、令和2年2月8・9日に開催されました第15回九州矯正歯科学会学術大会において久永 豊先生が中心となって当研究会より発表されましたポスター発表をご紹介します。

学童期における永久歯の埋伏歯および萌出遅延歯の調査とその対処方法

久永 豊、平良幸治、近藤俊輔、上村裕希、太田文隆、

京極和彦、犬童寛治、山部耕一郎、分山英次

熊本矯正歯科研究会

【目的】

平成28年度に実施された厚生労働省の歯科疾患実態調査では、12~20歳の歯列・咬合の調査で叢生のある者は約26%であった。この結果からも4人に1人の割合で叢生を有することが理解でき、現在もなお歯と顎骨の不調和(アーチレングスディスクレパンシー)は不正咬合の大きな原因の一つと考えられる。また、日々矯正臨床の現場においても、アーチレングスディスクレパンシーによる学童期児童の永久歯の埋伏歯や萌出遅延歯に遭遇する機会が多々ある。さらに平成30年度からは「前歯3歯以上の永久歯萌出不全に起因した咬合異常(埋伏歯開窓術を必要とするもの)」に限り保険診療の対象になったことは、我々矯正医に埋伏歯や萌出遅延歯に対して慎重に精査・診断し、確実に永久歯の保全に努めることを示唆しているものとする。

このような背景から、今回我々熊本矯正歯科研究会では、各医院での学童期における永久歯の埋伏および萌出遅延を示す歯を調査するとともに、これらの歯によって後々引き起こされる歯列・咬合への障害を再認識し、これらの歯の予防ならびに対応について理解を図ることを目的として調査を行った。

【資料および方法】

資料はパノラマX線写真、CT写真とし、小学1年生から中学3年生までの学童期の患者を対象者とした。対象期間は2017年1月から2018年12月までの2年間で、この間の各医院の治療中(動的および保定)の患者を

対象に、永久歯の埋伏歯または明らかな萌出遅延歯（通常の萌出時期を2年以上超えた歯）を認めた患者資料を抽出し、性別、年齢別、部位別に調査した。

【結果】

各医院の対象患者の総数は100名であった。

<1, 性別>

男子は41人（41.0%）、女子は59人（59.0%）であった。

<2, 年齢>

年代別においては、6歳代は3人（3.0%）、7歳代は8人（8.0%）、8歳代は9人（9.0%）、9歳代は12人（12.0%）、10歳代は24人（24.0%）、11歳代は12人（12.0%）、12歳代は15人（15.0%）、13歳代は10人（10.0%）、14歳代は3人（3.0%）、15歳代は4人（4.0%）で、10歳代がもっとも多く認められた。

<3, 部位>

- ① 上顎、下顎に関しては、上顎は77人（77.0%）、下顎は23人（23.0%）であった。
- ② 片側、両側に関しては、片側は69人（69.0%）、両側は31人（31.0%）であった。
- ③ 上顎歯種別では、中切歯は2人、側切歯は4人、犬歯は59人、第一小臼歯は0人、第二小臼歯は7人、第一大臼歯は1人、第二大臼歯は3人であった。
下顎歯種別では、中切歯は0人、側切歯は0人、犬歯は4人、第一小臼歯は3人、第二小臼歯は2人、第一大臼歯は1人、第二大臼歯は15人であった。

【考察】

埋伏歯や萌出遅延歯は歯列および咬合の審美性、機能性に悪影響を及ぼすだけでなく、臨在歯へも異常な歯の移動や歯根吸収などを引き起こすことが考えられる。今回の調査より、学童期の患者を治療する際は、低学年時より定期的にパノラマX線写真などの撮影を行い、未萌出永久歯、歯胚の萌出方向、萌出状況をしっかりと把握しておくことが大切と思われた。

特に上顎では犬歯、下顎では第二大臼歯に対象歯が最も多く認められたことから、それぞれの萌出時期を考慮して、上顎犬歯に関しては7～8歳までに、下顎第二大臼歯に関しては9～10歳までにX線写真を撮影し、それぞれの萌出状況を歯胚の時期から確認、把握することが有用と思われた。そして萌出異常が疑われた際はCT撮影などを行い、対象歯および対象歯と臨在歯との位置関係を三次元的に精査し、必要があれば早期に対応することが重要と思われた。

【結論】

学童期の患者を治療する際は、低学年時より定期的にパノラマX線写真などの撮影を行い、未萌出永久歯歯胚の萌出状況をしっかりと把握しておくことが重要と思われた。

お知らせ

1. 来年度より会費のお支払い方法を口座自動引き落としとするべく検討しており、準備を進めております。（11月20日の総会で正式に説明・了承を得たいと考えております。）
2. 第15回九州矯正歯科学会学術大会の学会抄録集を配布します。ご希望の先生は事務局（犬童矯正歯科クリニック 久永）までご連絡ください。

（編集：広報担当理事 鬼塚研志）

熊矯ホームページは、<http://kumakyouseiken.com/> 会則閲覧パスワード：kos2021

熊本矯正歯科研究会のニューズレターはホームページからもご覧できます。是非ご覧くださいませ。

会費未納の会員の先生方は早急に納入くださるようお願いいたします。